

## メディア教育部会 公開授業研修会 報告

大田市教育研究会メディア教育部会

部長 勝部高良

## 1 本研修会のねらい

- 1) 仁摩小とサヒメルを結んだ遠隔授業が成り立つか検証する。
- 2) オンラインでの授業研修が成り立つか検証する。

## 2 授業の概要

実施日時	令和3年1月20日(水) 15:00~15:45(6校時)
会場	大田市立仁摩小学校 4年生教室
授業単元	4年理科「冬の星」
児童	仁摩小4年1組児童19名
授業者	大國寛和教諭(仁摩小)、ゲストティーチャー矢田猛士さん(サヒメル)
参加者	直接参加5名、オンライン参加7名(久屋小、久手小、池田小、志学小)

## 3 授業の環境

## (1) 児童用PCを4台使用

PC【A】モニターにHDMIケーブルで接続。教室前方カメラとして使用(インカメラ)。

PC【B】外部マイクを接続。黒板・教師カメラとして使用(インカメラ)。

PC【C】教室後方カメラとして使用(インカメラ)。

PC【D】ホストPCとして使用。

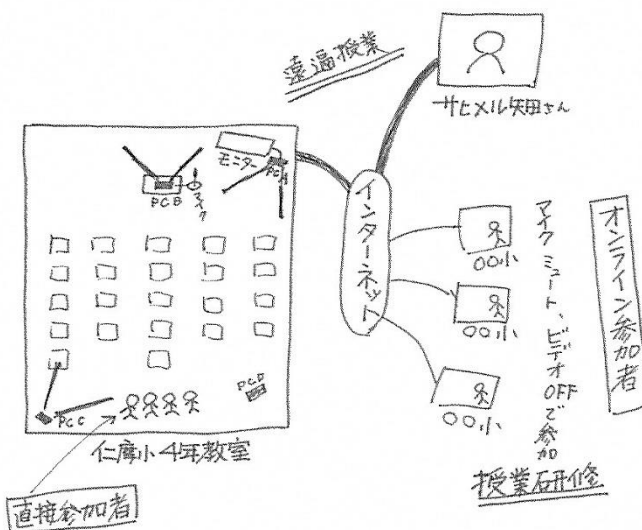
## (2) 教育用ネットワーク Wi-Fi 接続で使用。

## (3) モニターは55インチ。サヒメルからの画面をピン留め表示。

## (4) 外部マイクは360°全方向指向性USBマイク。(970円)

## (5) 会議システムはZoomを使用。

※(1)(2)は市教委による整備品、(3)(4)は学校裁量の整備品、(5)は借用品



## 4 **研修を終えて**

### 1) 仁摩小とサヒメルを結んだ遠隔授業が成り立つかの検証

- サヒメルなど外部講師と教室をオンラインで結ぶ遠隔授業は、現在の機器だけでも成り立つことが確認できた。ただし、事前の接続チェックなども考えると、時間制限のないオンライン会議システムは必要である。
- 授業時間での実際の観察が難しい星の学習でも、サヒメルの専門家の方が、子どもたちに語りかけるように説明して下さることが、子どもたちの意欲向上の面でも効果的だった。
- 教室マイクとモニタースピーカーのハウリングが大きく、授業の進行に悪影響があった。途中モニターの音量をオフにしたり、マイクをミュートにしたりするなど対応したが、児童と外部講師とのより活発なコミュニケーションを求める授業ならば、エコーキャンセル機能のマイクなどハード面の整備の必要性がある。
- 画面共有による外部からの資料提示もスムーズに行えた。児童がかいた観察カードを事前にサヒメルに送り、サヒメルからの資料として画面に提示されたときの児童の反応が、テレビに自分の作品が写ったかのように嬉しそうだったのが印象的だった。
- ネット回線を経由することから、教室からの質問に対して、回答が遅れて届くことが確認できた。超高速回線が整備されれば話は別だが、現状では時間差のあるやりとりに慣れることしかできないのではないだろうか。

### 2) オンラインでの授業研修が成り立つかの検証

- 授業を見ている途中でも、チャット機能を使って研究視点の確認や意見交換ができるというよさはあった。
- 直接授業を見るように、自分で見たいところを選べないということがオンラインによる研修の欠点となる。しかし、逆に考えると、授業者が見てほしい部分に焦点を当てることはオンラインの方がやりやすいと言える。授業研修をオンラインで行うならば、研究の視点に合わせてカメラの増設をしたり、ビデオカメラで撮影するような映像を流せるようにしたりするなどハード面の準備や撮影スタッフ等の配置の必要性がある。

## 5 **今後のICT活用を考えていく上でのポイント**

- ・オンライン会議システム：セキュリティー、ネットワーク環境
- ・1人1端末の活用：使いたいときに使える環境 効果的に使うための実践の積み重ね
- ・保護者、地域の方の協力：啓発活動、持ち帰りの場合の利用環境
- ・教職員のICT活用能力のスキルアップ：教職員も日常使いができる環境
- ・ICT活用推進のためのチーム：実践の集約、情報発信、環境改善